報道関係各位

2026 年 11 月 9 日
積水ハウス株式会社

積水ハウスを支える大工の最高峰が切磋琢磨する技の祭典
―全国の大工さんへリスペクトと感謝を込めて―
技術の先にある、一人ひとりの「大工」への思いを未来へ

積水ハウス大工選手権大会 WAZA 2026 開催

積水ハウス株式会社は、全国で活躍する「積水ハウス会」所属の大工さんへ最大の敬意と感謝を込め、その技術と情熱を次世代、そして世界へ発信する「積水ハウス大工選手権大会 WAZA 2026」を、11 月 8 日（日）、インテックス大阪にて開催しました。



全国の大工さんの中から、各エリアを代表するマスタークラス 13 名、35 歳以下の U35 クラス 13 名、計 26 名が出場。施工精度や仕上がり、安全性、作業手順など、実際の施工現場で求められる総合的な技術力を競いました。
競技課題は、大工の多様な技術や技能に光を当てるため、毎年、技術の見せ所や競技の見どころを変えて設定しています。
2026 年は、大会で初めて「階段造作」を競技課題に採用。階段は、正確な墨出しや下地づくりから、部材の加工、組み立て、手すりの施工まで、複数の工程を高い精度で組み上げる技術が求められます。美しい造作と緻密な作業が求められる課題に、26 名が日頃磨いてきた技術と判断力で挑みました。
また今年は、技術を競うだけでなく、大工一人ひとりの仕事への思いや誇りにもフォーカス。出場選手によるトークセッションでは、大工として働くやりがいや使命感、お客様・家族・仲間への思いを語るなど、技術の背景にある一人ひとりの歩みや信念・情熱にも光を当て、「大工」という仕事の魅力を発信しました。
さらに、競技とあわせて、子どもたちがものづくりを体験する「WAZA KIDS」を開催。木工作品づくりへの挑戦を通じて、ものづくりの楽しさや大工の技に触れ、子どもたちが「大工」という仕事を身近に感じる機会となりました。

開会挨拶

積水ハウス株式会社 代表取締役兼 CEO 社長執行役員 仲井 嘉浩





本日は第４回「積水ハウス大工選手権大会 WAZA 2026」にご参加いただき、ありがとうございます。はじめに、素晴らしい技術と美しい仕上がりで当社の施工品質を支え、グローバルビジョンである「『わが家』を世界一幸せな場所にする」の実現に貢献してくださっている全国の大工の皆さんに、心より感謝申し上げます。

現在、建設業界では職人不足が深刻化していますが、当社は全国の大工の皆さんに支えられ、十分な工事力を確保しています。本日出場する 26 名は、その中から技術力や実績などをもとに各地域から選抜された精鋭たちです。優勝することは、当社の施工を支える大工の皆さんの頂点に立つことであり、大変名誉あることだと思います。

私は、大工は高度な能力が求められる、素晴らしい仕事だと考えています。数学的な知識や空間認識能力、美的感覚、段取り力、コミュニケーション能力など、多様な力が必要です。海外と比較しても日本の大工の技術水準は非常に高く、その中でも厳しい竣工基準をクリアする積水ハウスの大工の皆さんはトップクラスです。今回はアメリカやオーストラリアからも現地の施工管理者が視察に訪れています。将来的には海外の大工も参戦するなど、WAZA が世界へ発展していくことを楽しみにしています。

また、過去 3 回の開催を通じて、予想していなかった嬉しい変化も生まれています。大会を見たお子さんが大工になることを決意したこと、出場者同士が地域を超えて技術やノウハウを共有するコミュニティが生まれつつあること、そして大会の YouTube 映像を見た高校生や高専生が、積水ハウスグループの大工を志すきっかけになっていることです。技術の継承や次世代の担い手の育成にもつながる大会として、さらに発展させていきたいと考えています。

最後に、大工の皆さんを日々支えてくださっているご家族や地元の工務店の皆さんにも、改めて感謝申し上げます。選手の皆さんには、日頃磨いてきた技術を存分に発揮していただきたいと思います。

【マスタークラス】優勝者コメント

弘重　達也　さん（山口県）



今日は本当に楽しかったです。階段部分の細かい作業には結構気を遣いましたが、自分の作業スピードを最後まで保てたことが大きな勝因だと思います。昨年 U35 クラスで私の弟子である岩本夏樹が優勝し、周りからは私も優勝するものだと思われ、ハードルもグンと上がりました。自分も「負けたくない」という気持ちで 1 年間ずっとトレーニングしてきたので、その成果を出せたと思います。今回優勝できましたが、私はいつも初心の気持ちを忘れず、新しいことに挑戦したいと思っています。時代が変わっていく中で、作業環境もやり方も変えていかなければいけません。大工という仕事を通して、お客さんが喜んでくださることが一番嬉しく、自分へのご褒美です。これからもどんどんチャレンジしていきたいですね。

【U35クラス】優勝者コメント

久保川　滉也　さん（広島県）



制限時間の 15 分前に作業は終わり、現場の清掃をしていましたが、手摺に気になる部分があったので、もう一度コンプレッサーにホースをつないで手直ししました。スタートダッシュである程度決まると思っていたので、最初の墨出しが勝負だという気持ちで頑張りました。手摺は現場で一度しか経験がなかったので、大会中にどのくらい時間がかかるのか読めず、その点はてこずりました。時間配分については、所属工務店の社長である兄が、事前の打ち合わせに積極的に付き合ってくれたのがありがたかったですね。そして、帰宅するとリラックスできるように、いつも気を遣ってくれる妻にも感謝しています。いつかマスタークラスに出場し、そちらでも絶対に入賞を目指したいです。

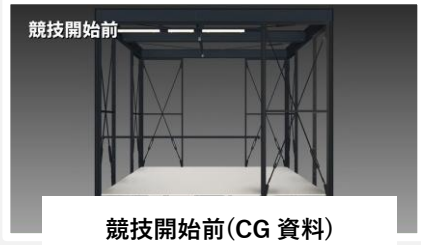
大会の開催概要

本大会は、積水ハウスグループを支える大工さんに敬意と感謝を表すため、その技術や真摯な姿を披露し、「大工」という仕事の魅力を発信することを目的に、2023年から始まった技能大会です。
4回目となる今年は、マスタークラス、35歳以下のU35クラス各13名、計26名が出場。競技課題は、大工の多様な技術や技能に光を当てるため、毎年、技術の見せ所や競技の見どころを変えて設定しています。
今年は、大会初となる「階段造作」を競技課題に採用。正確な墨出しや下地づくりをはじめ、階段の組み立て、手すりや小柱、ボード加工など、複数の工程を通して大工の総合的な技術力を競いました。施工手順・精度・仕上がり・安全・整理など、実際の施工現場で求められる総合的な技術力を、さまざまな観点から審査しました。さらに、競技の合間には、出場選手によるトークセッションを実施。それぞれの仕事への向き合い方や、お客様・家族・仲間への思いなどを語り、技術だけではない「大工」という仕事の魅力を伝える機会となりました。
また、子どもたちがものづくりを体験する「WAZA KIDS」も開催。木工作品づくりを通じて、ものづくりの楽しさや大工の技に触れ、「大工」という仕事を身近に感じてもらう機会としました。

・開催日時：2026年11月8日（日）9:00～14:40　／　場所：インテックス大阪1号館
・競技内容

① 間仕切りランナー、間仕切スタッド（仕切り壁の骨組み）
② 階段下地
③ 階段（蹴込板・段板）
④ 階段見切
⑤ 化粧手摺
⑥ ニッチ★
⑦ 間仕切り壁石膏ボード貼付
⑧ 間接照明下地、突板化粧パネル

※★はマスタークラスのみ



競技開始前(CG 資料)



完成図(CG 資料)

大会の様子

